

## 総論

## 心臓リハビリテーションとは



角口亜希子 (公益財団法人 日本心臓血管研究振興会附属 榊原記念病院 看護副部長)

## point

- 心臓リハビリテーションは、心疾患患者の再発予防に欠かせないプログラムである！
- 循環器看護師は、再発予防に向け心臓リハビリテーション通院への動機づけを行うことが大切である！
- 心臓リハビリテーションに通院しない患者に対しては、継続支援ができるよう工夫すること！

## はじめに

リハビリテーション (rehabilitation) の (re) は「再び」の意を示し、(habilitate) はラテン語の (habilitare (適合させる)) からきています。したがって、心臓リハビリテーションとは、「心疾患を発症した患者が再びもとの状態に戻る」ことを意味します。心疾患患者が再びもとの生活に

戻るということは、具体的にはどのような課題があるのでしょうか？

本章では、特集のテーマとなっている「心臓リハビリテーション」について概要を説明しながら、心臓リハビリテーション (以下、心リハ) における循環器看護師の課題について述べたいと思います。

## 心疾患の特徴と看護支援課題

## 心疾患の特徴

心臓は全身に血液を供給する役割を果たしているため、本機能に問題が生じると全身への血液供給が不十分となり、各臓器の機能不全につながる可能性があります。日本の主要死因別死亡数<sup>1)</sup>において、悪性新生物に次いで心疾患が第2位となっていることからみても、生命の危機的状況に陥る重篤な疾患といえます。

心疾患には、冠動脈の狭窄・閉塞によって引き起こされる虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)、心臓の弁膜の狭窄・閉鎖不全を呈する弁膜症疾患、その他大血管疾患、心筋疾患、不整脈などさまざ

まな疾患があります。これらのどの疾患においても、発症や症状悪化時には胸痛、呼吸困難、動悸などの自覚症状を伴い、患者は恐怖感や不安感を抱えます。そして突然の入院や自覚症状の持続により日常生活のセルフケア維持が困難となるばかりか、低下した心機能の程度によっては退院後の日常生活にも支障をきたし、心理的・社会的問題が持続する可能性もあります。

また心疾患は、再発を繰り返すことによって徐々に心機能が低下して心不全を発症し、重症心不全になると治療は難渋化し、生活の質も著しく低下するといった特徴を持ちます(図1)<sup>2)</sup>。

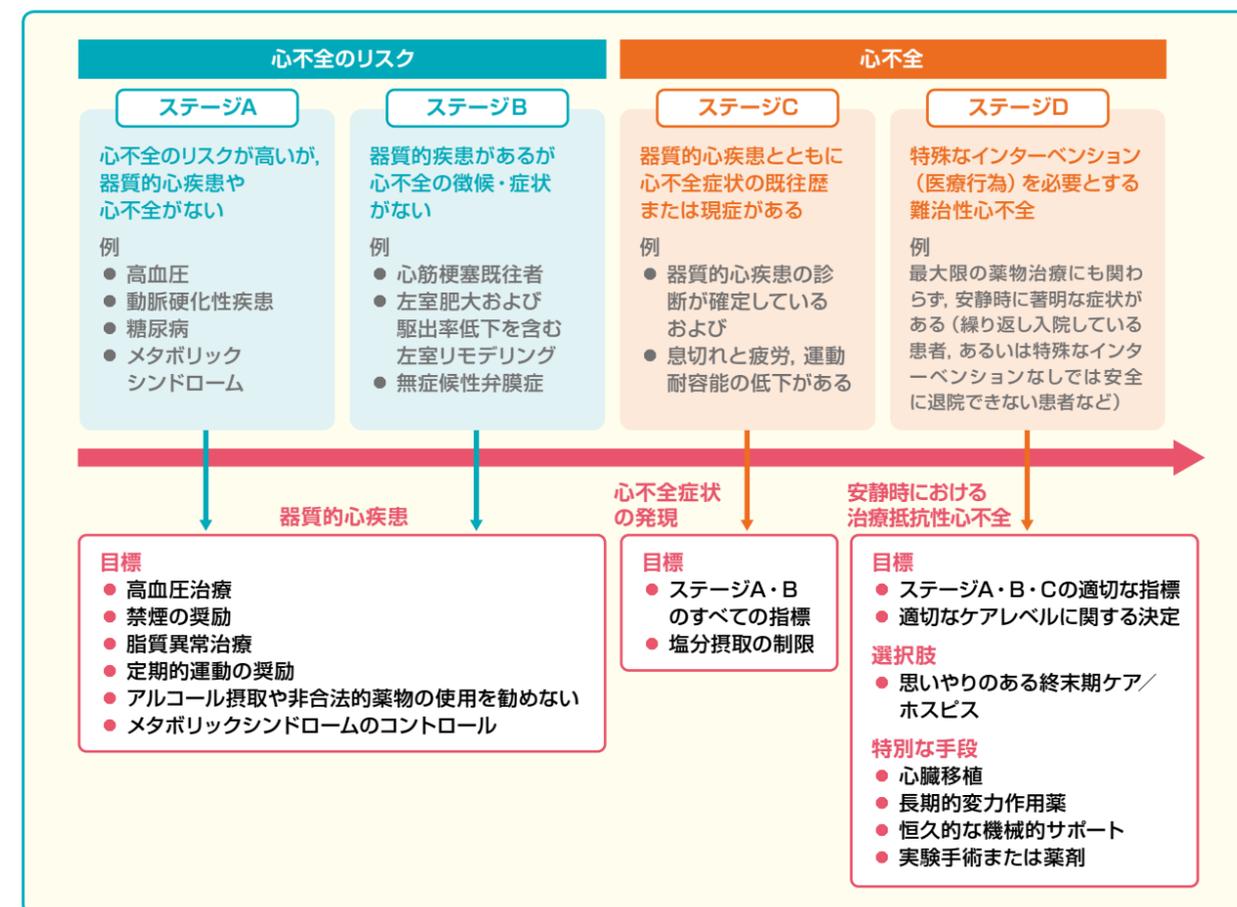


図1 心不全の発症ステージ (文献2より改変)